

特定健康診査事業

40～74 歳の市国民健康保険被保険者のメタボリックシンドロームなどの生活習慣病予備群を早期発見し、生活習慣改善のための特定保健指導を行います。

特定健診：身体計測、診察、血圧、血液検査等の健康診査を行います。（集団・個別）

特定保健指導：結果に応じ、保健師、管理栄養士が保健指導を行います

1、特定健診・特定保健指導スケジュール

	5月	6月	7月	12月	1月	2月
特定健診	個別通知	集団健診	個別健診 個別通知	健診終了		
特定保健指導			結果相談会・個別保健指導⇒			

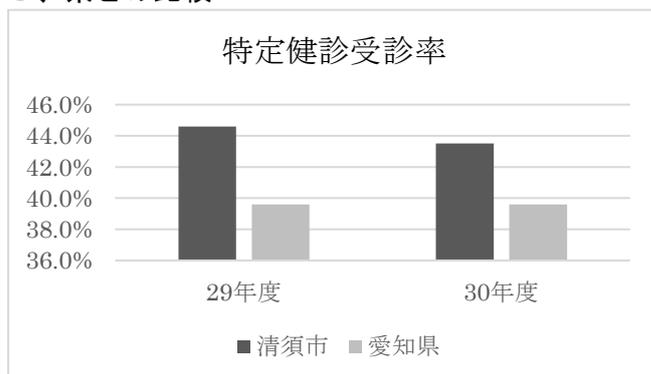
- ・5月には受診率の低い40～59歳までの全ての国保加入者に問診票を同封し個別勧奨をしています。
- ・6月は市内4ヶ所の保健センターで計27日間、集団健診を実施します。
- ・7月から個別健診が、地域の指定医療機関で12月まで受診できます。

2、実績

	特定健診			特定保健指導		
	対象者 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	対象者 (人)	終了者数 (人)	終了率 (%)
平成28年度	9,997	4,586	45.9	489	98	20.0
29	9,559	4,259	44.6	464	97	20.9
30	9,259	4,024	43.5	470	168	35.7

- ・清須市の受診率は年々減少傾向にあります。特に働く世代の40～50歳代の受診率が低いため、受診勧奨などの取り組みを強化しています。
- ・特定保健指導は若い世代は仕事等で、連絡がとれない、また保健指導の時間が取れない方が多く、終了は20%代でした。30年度は指導方法が変わり、終了率が高くなりました。
- ・生活習慣病重症化予防を目的とした受診勧奨や保健指導もあわせて実施しています。

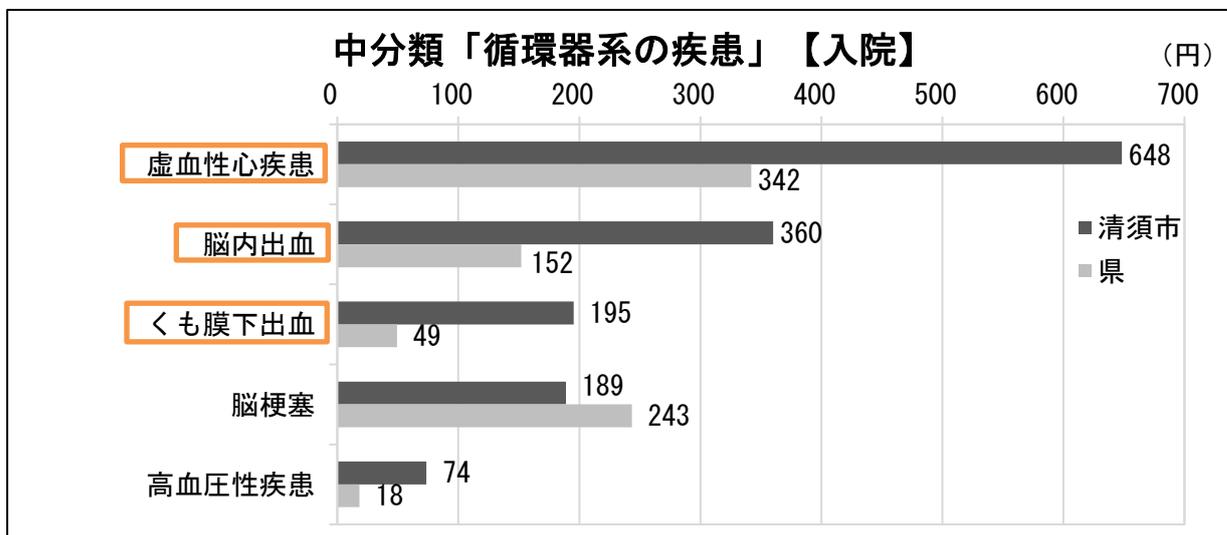
3、県との比較



受診率は県平均より高いものの、国の目標は60%であり、受診の必要性を啓発していく必要があります。

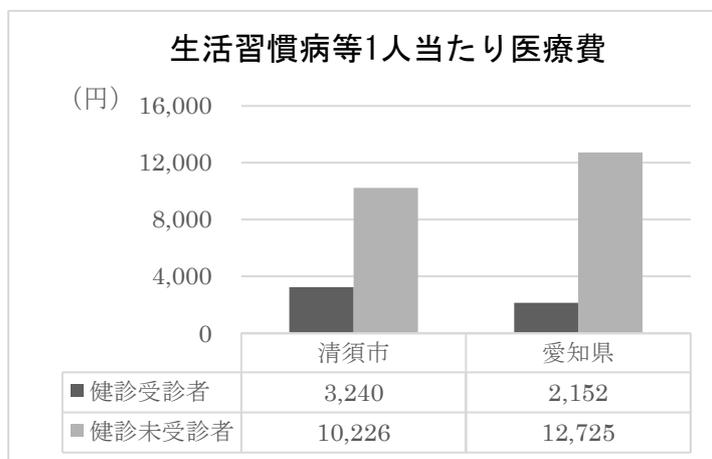
4、疾病分類別医療費の状況

1人当たり費用額を疾病分類で見ると高い順から「循環器疾患」、「新生物」、「精神及び行動の障害」となっており、さらに循環器疾患の内訳は下記の通りで、県より著しく高くなっているのが特徴です。



(出典：KDB システム 疾病分類別医療費分析 28年度)

5、健診受診者、未受診者における生活習慣病等一人当たりの医療費 (単位：円)



(出典：KDB システム データから見る地域の健康課題 30年度)

特定健診受診者と未受診者では、医療費に大きな差が見られます。普段から健診を受ける方は、健康意識が高く、また早期の段階で受診するため医療費が低く抑えられていること等が考えられます。

【まとめ】

高齢化の急速な発展や生活習慣の変化に伴い、死亡原因や医療費に占める生活習慣病の割合が増加しており、医療費においても加齢とともに循環器疾患や糖尿病等の生活習慣病が増加しています。市では生活習慣病の早期発見、早期治療のために特定健診・特定保健指導を推進しています。健康意識を高め、自らが健康づくりに取組むことは、市民の生活の質の維持・向上、さらには医療費の抑制、国民健康保険料の是正にもつながります。